

11月1日（月）

Hilo Medical Center 見学・食事会

報告：吉田 亜古（Cグループ）

飛行機でオアフ島からハワイ島に移動し、お昼ご飯にロコモコを食べた後に Hilo Medical Center に向かいました。

Hilo Medical Center は Hilo 最大の総合病院です。アメリカの医療体制のもとでは、患者さんはまずクリニックを受診します。クリニックの医師に入院や手術が必要と判断された場合にのみ総合病院の受診をしま

す。Hilo Medical Center はクリニックからの患者さんを受け入れるという役割を担い、また、この地域での救急医療の中心となっています。さらに、私立・公立の老人介護施設、精神科の施設、ホスピスなどが近接しており、病院を中心に医療介護施設が集約されていました。

到着後、Elena さんに院内を案内して頂きました。各専門の病棟、ナースステーション、レントゲン・CT などの検査室、理学療法・作業療法を行うための部屋などは、日本の病院と大差はないように思いました。

その中で、大きく異なっていた事の一つは、アルコール中毒・薬物中毒者を専門的に治療するための部門が充実していたことです。中毒者の数多く（正確な数値は分かりませんが）このような設備は必須であると Elena さんは言っていました。もうひとつ大きな違いを感じたのは、患者さんに対する教育・啓蒙に医療スタッフみんなが取り組んでいるということでした。Hilo Medical Center 到

着時にまず目についたのは、入り口の大きな垂れ幕です。‘感染予防を行いましょう！’と簡潔に感染予防法が示されていました。また、病院内のエントランス、待合室など患者さんが時間をもてあましそうな場所にはモニターがあり、病院のスタッフが作成した広告が映し出されていました。この様に積極的に患者さんに知識を広めることで、患者さんに少しでも健康的な



生活を送ってもらうことができ、さらに予防を行うことは医療費を削減し病院の経営に有利でもあるため、力を入れて取り組んでいるとのことでした。

その後、周辺の施設を見学させてもらい、Hilo 初日の実習が終わりました。

夕食会

夜は、Hilo Medical Center 関連病院で働く先生方との夕食会がありました。アメリカの医療体制、家庭医の仕事内容、家庭医療の現状、また日本の研修医制度、家庭医療の現状、など、医療に関してお互いに説明・質問し理解を深めました。また、Hilo の火山、天体望遠鏡などの話もしました。

日本の家庭医療はまだ発展の途中で教育システムが一部を除いては確立されてないこと、家庭医を目指す若い医者が少ない事を説明しました。その際に「どうすれば家庭医に興味を持ってもらえると思いますか？」という質問が、私たちの中から飛び出しました。その返事は「現在アメリカでも家庭医を志望する人が減ってきている。家庭医の研修プログラムは近年減少傾向で、プログラムマッチ率も 70% ぐらいまで落ち込んでいる。」とのこと、私としては意外な返事が返ってきました。なぜ減少傾向なのか聞いてみると「プライマリーケアが大切という考えを持っている人は多いが、やはり、金銭面・QOL の面から専門思考になるのではないか」という返事が返ってきました。実際、一緒に食事した先生の中にも家庭医プログラムを終えた後にスポーツ医学の研修を行っている方もいました。

初日はゆったりとしたスケジュールでしたが、日本と Hawaii の病院の違いを知り、また、家庭医療について情報交換でき、有意義な時間を過ごせました。

